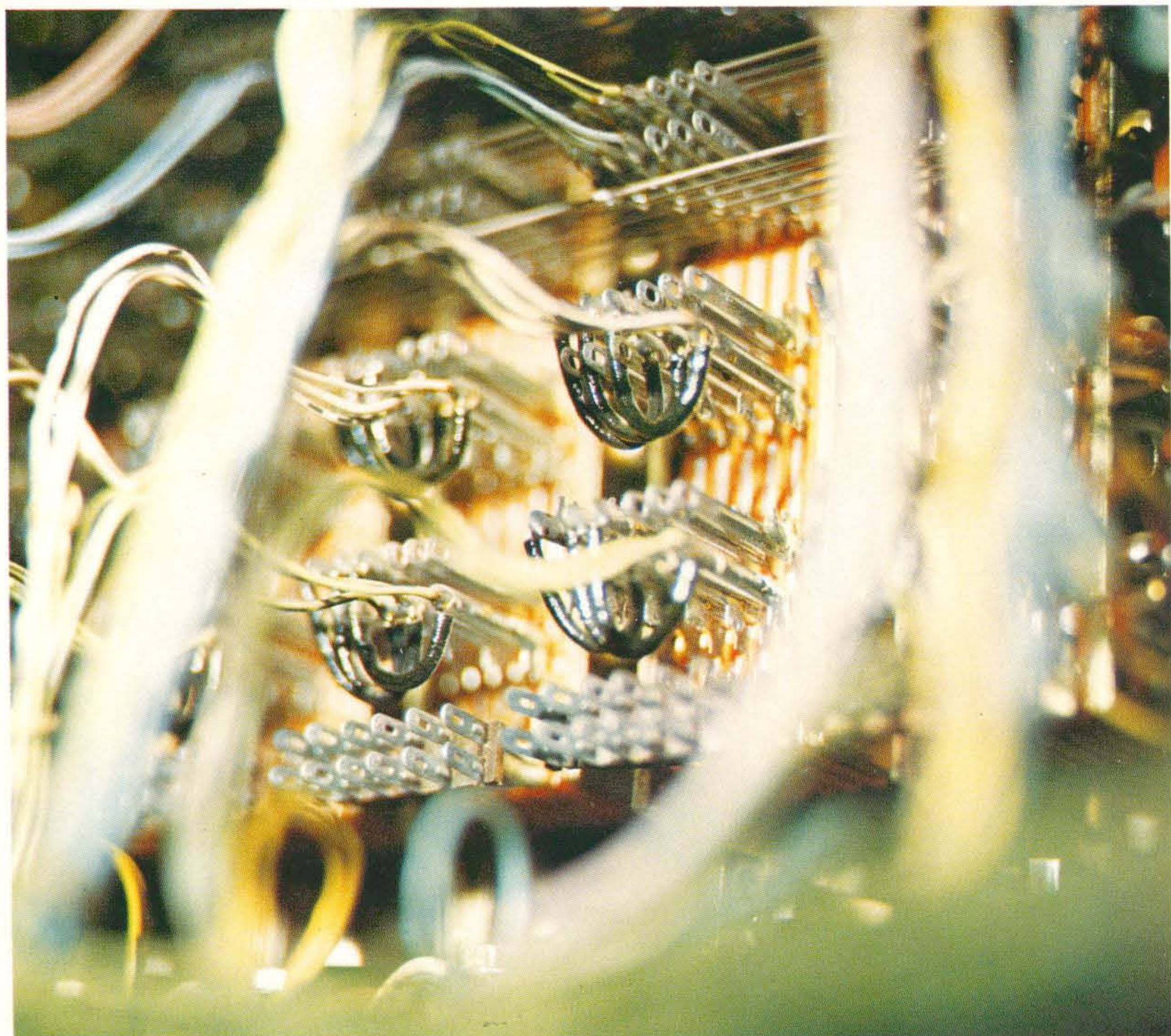




切替スイッチの省略

クロスバ交換機は約十数年前よりわが国に導入され、共通制御方式の特長である各種機能の豊富さとクロスバスイッチ、ワイヤースプリングリレーなどを使用することによる動作の優秀さにより、広く普及している。

本発明は、共通制御方式のクロスバ自動交換機におけるクロスバスイッチの使い方に関するもので、従来クロスバスイッチの交差接点の切替接続のため、大量に専用の切替リレーを使用していたり、切替えのためにスイッチ交差接点の一部を犠牲にしていた点を改良し、クロスバスイッチの使用上の制限を大幅に緩和したものである。

すなわち、クロスバスイッチの交差接点の切替えのために前位または後位のクロスバスイッチを活用することを考案したもので、これによってシステム全体のスイッチの使い方が、大幅に改善された。実際のシステム構成には、前位または後位のスイッチによって交差接点を切替えることにより、被切替スイッチの収容能力を部品増加を伴わずに拡大させており、切替スイッチはシステム全体として大群化されたものとして群構成を考えることにより、使用能率を向上させている。

本発明は、昭和44年特許公告されたが、これによって従来PBXクロスバ交換機は、1キャビネットに60～80回線の収容能力だったのが、一挙に200～300回線となり、狭いスペースでも本格的自動交換機の設置を可能にしPBX交換機発展の基礎を開くとともに、アメリカはじめ諸外国への本格的輸出を盛大にした。

本発明の新規性は、クロスバスイッチ交差接点の切替方法につき、他のスイッチを活用することにより、システム全体の効率を著しく向上させた点にある。

写真は、交換機内におけるクロスバスイッチ群